

体育学部体育学科

科目コード	25103		区 分	専門基礎科目		実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	発育と発達		担当者名	浅野 幹也		○			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、ヒトの一生（受精から、胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、少年期、思春期、青年期、中高齢期）について、身体 の形態や機能が変わっていくライフステージにおける発育と発達、また、老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達の観点から、ライフステージに応じた運動・栄養等の生活様式、また、遺伝や環境についての知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」の資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、人間の身体の発育・発達と老化における基本的理解を深め（30分程度）、毎時の課題となるレポート作成に取り組む（90分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。また、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・提出物及び定期試験に基づき、総合的に成績を評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各単元ごとに資料を配布する。

<参考書>

- （公財）日本スポーツ協会(2019)
公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト[理論編]
- （公財）日本スポーツ協会
杉原隆・河邊貴子(2014)
幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-
- ミネルヴァ書房
（財）健康・体力づくり事業財団（2008)
健康運動実践指導者用テキスト【改訂第3版増補】
（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	ライフステージと発育発達	ライフステージにおける発育発達
3	からだ（形態）の発育発達	発育発達パターンと特徴
4	運動能力（機能）の発育発達	ライフステージにおける運動機能の発達
5	発育発達とホルモン	発育発達に関わるホルモンについて
6	発育発達と反射	発育・発達に伴う認められる反射について
7	加齢変位と老化	中高齢期の発達と衰退
8	発育発達の性差と個人差	発育発達における性差と個人差について
9	遺伝と発育発達	遺伝と発育発達との関係について
10	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価方法について
11	発育発達と老化と運動	年齢に応じた運動と運動方法について
12	発育発達と老化と体力	年齢に応じた体力と運動内容について
13	発育発達と老化と食事	年齢に応じた栄養素と食生活について
14	発育発達と老化と生活習慣	生活習慣と疾病について
	まとめ	全時限の講義内容のまとめ

体育学部体育学科

科目コード	36501		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動器の解剖と機能Ⅰ		担当者名	廣重 陽介			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーやストレンクス&コンディショニングコーチを目指す上で必要とされる、人体（特に骨、関節、筋、神経などの運動器）の解剖と機能について学習し、理解を深める。「運動器の解剖と機能Ⅰ」では特に概論、体幹部を中心に教示する。

<授業の到達目標>

トレーナーなどのスポーツ指導者として活動する上でのベースの部分となる運動器の解剖と機能を理解し、スポーツ現場での種々の対応に応用する基礎が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

視聴覚教材、配布資料を適宜使い、教科書に沿って授業を進行する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。初めて聞く身体の部位や名称も多く教示するため、教科書や配布資料（事前に配布）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項の予習を90分以上、復習を30分以上行い、理解を深めること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共の使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けるための科目である。体力、競技力、障害予防等を効率的に向上させるために必要な身体のしくみについて理解を深め、スポーツ指導者としての能力を高める機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 80%（中間40%/期末40%）、受講態度（学習意欲、課題提出） 20%。 試験に対するフィードバックは講義中または個別にフィードバックする。

<教科書>

（公財）日本スポーツ協会（2010年2月1日）

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト② 運動器の解剖と機能

<参考書>

川島敏生（著）栗山節郎（監修）（2012年3月23日）

ぜんぶわかる筋肉・関節の動きとしくみ事典

成美堂出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の概要，到達目標，評価方法等の説明
2	運動器の解剖と機能概論（1）	体表区分，運動の表し方
3	運動器の解剖と機能概論（2）	運動器の構造と機能 骨・関節・靭帯（1）
4	運動器の解剖と機能概論（3）	運動器の構造と機能 骨・関節・靭帯（2）
5	運動器の解剖と機能概論（4）	運動器の構造と機能 筋・腱（1）
6	運動器の解剖と機能概論（5）	運動器の構造と機能 筋・腱（2）
7	運動器の解剖と機能概論（6）	運動器の解剖と機能概論のまとめ，復習
8	中間試験	運動器の解剖と機能概論
9	中間試験解説，体幹の基礎解剖と運動（1）	脊柱の運動
10	体幹の基礎解剖と運動（2）	頸椎の運動
11	体幹の基礎解剖と運動（3）	胸椎と胸郭の運動
12	体幹の基礎解剖と運動（4）	腰椎・仙椎・骨盤の運動（1）
13	体幹の基礎解剖と運動（5）	腰椎・仙椎・骨盤の運動（2）
14	上肢の基礎解剖と運動（1）	上肢の運動
15	総括授業	まとめ

体育学部体育学科

科目コード	36502		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動器の解剖と機能Ⅱ		担当者名	廣重 陽介			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーやストレンクス&コンディショニングコーチを目指す上で必要とされる、人体（特に骨、関節、筋、神経などの運動器）の解剖と機能について学習し、理解を深める。「運動器の解剖と機能Ⅱ」では特に上肢、下肢を中心に教示する。

<授業の到達目標>

トレーナーなどのスポーツ指導者として活動する上でのベースの部分となる運動器の解剖と機能を理解し、スポーツ現場での種々の対応に応用する基礎が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

視聴覚教材、配布資料を適宜使い、教科書に沿って授業を進行する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。初めて聞く身体の部位や名称も多く教示するため、教科書や配布資料（事前に配布）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項の予習を90分以上、復習を30分以上行い、理解を深めること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共の使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けるための科目である。体力、競技力、障害予防等を効率的に向上させるために必要な身体のしくみについて理解を深め、スポーツ指導者としての能力を高める機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 80%（中間40%/期末40%）、受講態度（学習意欲、課題提出） 20%。試験に対するフィードバックは講義中または個別にフィードバックする。

<教科書>

（公財）日本スポーツ協会（2010年2月1日）
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト② 運動器の解剖と機能

<参考書>

川島敏生（著）栗山節郎（監修）（2012年3月23日）
ぜんぶわかる筋肉・関節の動きとしくみ事典
成美堂出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、上肢の基礎解剖と運動（1）	講義の概要、到達目標、評価方法等の説明肩関節の運動（1）
2	上肢の基礎解剖と運動（2）	肩関節の運動（2）
3	上肢の基礎解剖と運動（3）	肘関節の運動（1）
4	上肢の基礎解剖と運動（4）	肘関節の運動（2）
5	上肢の基礎解剖と運動（5）	手関節の運動（1）
6	上肢の基礎解剖と運動（6）	手関節の運動（2）
7	上肢の基礎解剖と運動（7）	上肢の基礎解剖と運動のまとめ、復習
8	中間試験	上肢の基礎解剖と運動
9	中間試験解説、下肢の基礎解剖と運動（1）	股関節の機能解剖と運動（1）
10	下肢の基礎解剖と運動（2）	股関節の機能解剖と運動（2）
11	下肢の基礎解剖と運動（3）	膝関節の運動（1）
12	下肢の基礎解剖と運動（4）	膝関節の運動（2）
13	下肢の基礎解剖と運動（5）	足関節・足部の運動（1）
14	下肢の基礎解剖と運動（6）	足関節・足部の運動（2）
15	下肢の基礎解剖と運動（7）	下肢の基礎解剖と運動のまとめ、復習

体育学部体育学科

科目コード	36505		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価Ⅰ		担当名	廣重陽介、江波戸智希、高山 慎			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、六つの基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響をあたえる機能的と体力的要因を説明できる能力を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーに必要とされる評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能、科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けるための科目である。スポーツ現場において競技者の体力を科学的に評価するために必要な専門的知識について学習する。また、アスレティックトレーナー実習Ⅱ～Ⅴ、アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ～Ⅴで行う検査・測定、評価の基礎科目となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験80%、予習課題20%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ATに必要な評価（1）	ATによる評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	ATに必要な評価（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	ATに必要な検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋委縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	ATに必要な検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	ATに必要な検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	ATに必要な検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	ATに必要な検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	ATに必要な検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定方法
10	ATに必要な検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	ATに必要な検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	ATに必要な検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	ATに必要な検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定の検査項目とその目的と概要
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	ATに必要な検査・測定方法に関する総合討議

体育学部体育学科

科目コード	36506		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価Ⅱ		担当者名	廣重陽介、江波戸智希、高山 慎			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義、6つのスポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つの基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的および体力的要因を説明できることになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能、科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けるための科目である。スポーツ現場において競技者の体力を科学的に評価するために必要な専門的知識について学習する。また、アスレティックトレーナー実習Ⅱ～Ⅴ、アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ～Ⅴで行う検査・測定、評価の基礎科目となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験50%、総合学習課題30%、予習課題20%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ動作の観察と分析(1)	評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義
2	スポーツ動作の観察と分析(2)	歩行動作のバイオメカニクス
3	スポーツ動作の観察と分析(3)	歩行動作に影響する要因
4	スポーツ動作の観察と分析(4)	走動作のバイオメカニクス
5	スポーツ動作の観察と分析(5)	走動作に影響を与える機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム
6	スポーツ動作の観察と分析(6)	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス
7	スポーツ動作の観察と分析(7)	ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作の特徴とメカニズム
8	スポーツ動作の観察と分析(8)	跳動作のバイオメカニクス
9	スポーツ動作の観察と分析(9)	跳動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム
10	スポーツ動作の観察と分析(10)	投動作のバイオメカニクス
11	スポーツ動作の観察と分析(11)	投動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような投動作の特徴とメカニズム
12	スポーツ動作の観察と分析(12)	あたり動作のバイオメカニクス
13	スポーツ動作の観察と分析(13)	あたり動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなあたり動作の特徴とメカニズム
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	スポーツ動作の観察・分析に関する総合討議

体育学部体育学科

科目コード	64002		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	動きの発達とスキルの獲得		担当者名	浅野 幹也			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本スポーツ協会ジュニアスポーツ指導員講習会のカリキュラムに準拠した授業内容である。ジュニア期の子どもを対象としたスポーツの指導者は、その対象となる幼児・児童・生徒の基本的な動作発達の過程を熟知する必要がある。それは円滑な技術習得（スキルの獲得）の指導のためだけでなくスポーツ障害を未然に防ぐことにもなる。本講では、発育発達段階に応じた動きの発達とスキルの獲得の過程を学ぶ。

<授業の到達目標>

この授業の到達目標は、幼児期から児童期にかけてのジュニア期のスポーツ動作の獲得とそれを促進させる運動遊びの関連を学び、ジュニア期の子どもを指導できる指導力を身につけることである。スポーツ動作の反復練習ではなく、子どもが夢中になって遊ぶことで、動作が身に付けられる指導プログラムの作成能力も習得し、（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」の資格取得に繋げる。

<授業の方法>

講義形式で進めるが、可能な限り演習を組み込み、学生相互にて基本的運動動作の指導機会を設け、運動発達の過程と指導の着眼点を実践でも学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、ジュニア期の子どもの運動発達・スキルの獲得に関する基本的理解を深め（30分程度）、毎時提示される課題に対し、レポート作成に取り組む（90分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付ける。また、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けることを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業姿勢（実践的態度およびレポート提出）30%、実技試験20%、筆記試験50%をもって評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各単元ごとに資料を配布する。

<参考書>

- （公財）日本スポーツ協会（2019）
公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト【理論編】
- （公財）日本スポーツ協会
宮丸凱史(2011)
「子どもの運動・遊び・発達—運動のできる子どもに育てる—」
学研教育みらい
- （公財）日本スポーツ協会（2019）
公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト【実践編】
- （公財）日本スポーツ協会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	授業概要・進め方、IPU講義受講ルールの確認、子どもの心身の発育発達について
2	発達特性と個人差 (1)	幼児の走動作の発達バイオメカニクスと運動遊び
3	発達特性と個人差 (2)	幼児の投動作の発達バイオメカニクスと運動遊び
4	発達特性と個人差 (3)	幼児の蹴動作の発達バイオメカニクスと運動遊び
5	発達特性と個人差 (4)	幼児のまりつき動作の発達バイオメカニクスと運動遊び
6	発達特性と個人差 (5)	幼児の打つ動作の発達バイオメカニクスと運動遊び
7	動きの獲得 (1)	運動組み合わせ（捕投）の発達バイオメカニクスと運動遊び
8	動きの獲得 (2)	運動組み合わせ（走蹴）の発達バイオメカニクスと運動遊び
9	動きの質的評価 (1)	空間的調節からなるスポーツスキルの獲得と運動遊び
10	動きの質的評価 (2)	時間的調節からなるスポーツスキルの獲得と運動遊び
11	動きの質的評価 (3)	力量的調節からなるスポーツスキルの獲得と運動遊び
12	指導への応用 (1)	選択した動作についての概要調査
13	指導への応用 (2)	選択した動作の経験的練習方法の分析
14	指導への応用 (3)	選択した動作の練習方法の考案
15	まとめ	選択した動作の概要と考案した練習方法の発表

体育学部体育学科

科目コード	61005		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動障害と予防および救急処置		担当者名	河合 洋二郎			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動は、健康維持や増進に非常に貢献するが、その一方でそれ自身危険を伴う行為でもある。運動を景気に障害の発生する場合がある。障害の発生機序を理解し、その予防を合わせて勉強する。

<授業の到達目標>

本講義は後の科目（スポーツ健康論など）の役に立つ講義を目指す。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に随時通知する予定。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）と関連付けられています。「科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応することのできる力」を育む応用科目であり、障害の予防と治療について深く理解する機会を提供する。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 80%、小テスト20%

<教科書>

「健康運動指導士養成講習会テキスト」

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	序論	総論。障害とは、適応との違いとは
2	外科的障害（1）	上肢（上肢帯、上腕、肘、前腕、手）の障害
3	外科的障害（2）	下肢（下肢帯、大腿、膝、下腿、足）の障害
4	外科的障害（3）	脊髄の障害
5	外科的障害の予防	外科的外傷の予防法
6	外科的障害の治療（1）	外科的救急処置について（全身管理と局所管理）
7	外科的障害の治療（2）、小テスト	実習：外科救急処置の実習（状態把握、冷却）、小テスト
8	外科的障害の治療（3）	実習：外科的救急処置の実習（固定法、テーピング）
9	内科的障害（1）	内科的急性障害（突然死、熱中症）などの疫学、成因、病因、病態生理
10	内科的障害（2）	内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群など）の疫学、成因、病因、病態生理
11	内科的障害の予防	内科的障害の予防法
12	内科的障害の治療（1）	救急蘇生法について、状態把握、胸痛の分類
13	内科的障害の治療（2）	実習：熱中症、過換気症候群の救急処置
14	内科的障害の治療（3）	実習：救急蘇生法、AED、CRP
15	特殊環境下における運動障害と予防	高山病、潜水病、寒冷地での低体温について

体育学部体育学科

科目コード	36400		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツ障害論		担当者名	廣重 陽介			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校現場、スポーツ現場で遭遇するスポーツ障害について概説する。各々のスポーツ障害の特徴をを理解することにより、発生時の対処法（応急処置）や予防法などに関する基本的な知識についても習得する。

<授業の到達目標>

スポーツ現場で頻繁に遭遇するスポーツ障害について理解し、発生時の対処法、リハビリテーション、予防法を説明できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

視聴覚教材、配布資料、その他を適宜用いて授業を進行する。スポーツ障害発生時の対処法、安全対策等における演習も適宜実施する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

配布資料（事前に配布）、ノート、参考書などを活用し、予習、復習に努めること。学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。特に運動学、解剖学の基礎知識が必要となるため、各回の当該箇所の基本的事項の予習を2時間程度行い、講義に臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共の使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付ける力を育成する。体育、スポーツ現場で頻繁に遭遇するスポーツ障害について理解し、発生時の対処法、リハビリテーション、予防法などについての理論、知識を提供する。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 70%、受講態度（学習意欲、課題提出） 30%。

<教科書>

指定なし

<参考書>

鳥居俊（著）（2008年12月29日）

基礎から学ぶ！スポーツ障害

ベースボールマガジン社

一般社団法人日本スポーツ医学検定機構（2017年2月8日）

スポーツ医学検定公式テキスト

東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の概要，到達目標，評価方法等の説明
2	スポーツ障害総論（1）	運動器の解剖と機能の理解
3	スポーツ障害総論（2）	スポーツ障害の基本像
4	スポーツ障害総論（3）	スポーツ障害の発生機転
5	スポーツ障害総論（4）	スポーツ障害のリハビリテーション
6	スポーツ障害各論（1）	内科系の障害
7	スポーツ障害各論（2）	頭頸部の障害
8	スポーツ障害各論（3）	腰部・骨盤帯の障害
9	スポーツ障害各論（4）	肩関節の障害
10	スポーツ障害各論（5）	肘関節・手関節の障害
11	スポーツ障害各論（6）	股関節の障害
12	スポーツ障害各論（7）	膝関節の障害
13	スポーツ障害各論（8）	足関節の障害
14	スポーツ障害各論（9）	筋・腱の障害
15	総括授業	まとめ

体育学部体育学科

科目コード	37502		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツビジネス論		担当者名	小堀 浩志			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、スポーツビジネスの成り立ちから現状について、その特性や概略をスポーツ産業全体から学ぶ。また実際にスポーツビジネスの現場で課題となっている事柄についてグループワークなどを通じて自ら考えることでスポーツビジネスに対する理解をより深める。

<授業の到達目標>

1) スポーツビジネスの特性を知る。2) スポーツビジネスの成り立ちを知る。3) スポーツビジネスの現場で課題となっている事柄について自分なりの意見を持つことができる。

<授業の方法>

授業資料を中心とした一斉授業と少人数でのグループワークを中心に展開していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

今回の授業テーマについて資料やインターネット、新聞記事等で事前学習を行うこと。（約60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「幅広い教養に根ざした公共的使命観や倫理観」を育むための基礎科目であり、スポーツメディアについて深く理解し、自身の意見を持つための機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 20%、グループワーク評価 30%、レポート課題 50%

<教科書>

なし（講師がスライドを適宜用意する。）

<参考書>

原田宗彦 他（2015）

「スポーツ産業論6」

杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	スポーツの意味と語源、多様性について解説する。
2	スポーツ産業	スポーツ市場の歴史、現状を解説する。
3	「する」スポーツ、「見る」スポーツ	「する」「見る」スポーツの発展と現状について解説する。
4	スポーツ施設マネジメント	スタジアム、アリーナビジネス、指定管理制度について解説する。
5	スポーツクラブマネジメント	総合型地域スポーツクラブ、フィットネスクラブについて解説する。
6	スポーツイベントマネジメント	スポーツイベントのマネジメント、集客施策について解説する。
7	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの発展と現状について解説する。
8	スポーツ・ファイナンス	スポンサーシップとは何か？セールスパッケージの開発
9	アメリカのプロスポーツビジネス	アメリカのプロスポーツについて歴史と現状について解説する。
10	欧州のプロスポーツビジネス	欧州のプロスポーツについて歴史と現状について解説する。
11	日本のプロスポーツビジネス	日本のプロスポーツについて歴史と現状について解説する。
12	選手契約とマネジメント	選手の発掘・育成と指導者の育成、選手マネジメントの実際について解説する。
13	ライセンス、ネーミングライツ	商品化権と肖像権・パブリシティ権等について解説する。
14	スポーツ組織のマネジメント	国際競技連盟と国内スポーツ統括団体の組織運営について解説する。
15	講義のまとめ	本講義で解説を行った概念のまとめを行う。

体育学部体育学科

科目コード	37506		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツマーケティング論		担当者名	小堀 浩志			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され人とスポーツをより活発化させる機能として大きな役割を果たしている。本講義ではスポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能をJリーグクラブの実例を通じて学ぶことでその本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では国内外のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解する。プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新実例を知る。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、講義の最後に小テストを実施する。（東京からの遠隔授業を含む）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

インターネット等でスポーツマーケティング関連の情報を確認する。（約120分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「スポーツ科学に関する専門的知識の習得を通して知的に行動できる力」を育むための応用科目であり、スポーツビジネスの分野でリーダーとして活躍するための準備機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への参加度、講義中の小テスト 50%、期末レポート 50%※小テストについては講義時にフィードバックする。

<教科書>

なし（講師が適宜スライドを用意する。）

<参考書>

原田宗彦編著、藤本淳也・松岡宏高著（2008）

「スポーツマーケティング」

大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か？	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランドエクイティとは何か、ライセンスング
10	CRM	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグの最新マーケティング事例
14	事例紹介②海外スポーツ	欧州サッカー、米国スポーツ、アジアスポーツの事例
15	講義のまとめ	講義全体を通じたまとめ

体育学部体育学科

科目コード	37509		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	レクリエーション・マネジメント論		担当者名	浅野 幹也			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

(公財)日本レクリエーション協会公認レクリエーション・コーディネーターは、1993年に誕生し、時代認識とレクリエーション運動の基本方向を踏まえ、市民サービス型事業を中核となつてすすめることのできる人材である。本講義は、そのレクリエーション指導者養成における、まとめの講義として位置づける。したがって、履修学生は、「レクリエーションスポーツ」と「レクリエーション論」の2科目の単位認定を受けた者に限る。

<授業の到達目標>

時代認識とレクリエーション運動の基本方向を踏まえ、市民サービス型事業を中核となつてすすめることのできることを到達目標として、(公財)日本レクリエーション協会公認レクリエーション・コーディネーター資格取得を目的とする。

<授業の方法>

スライドと配布資料を基に講義を展開する。前時の講義内容の振り返りを、毎時において小テストを通じて行う。その他、グループワークを通じて、レクリエーション企画の方法を実践的に学ぶ。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする(30分程度)。また、与えられた課題に対し、参考者やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む(1時間30分程度)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける。また、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けることを目的とする。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート30%,プレゼンテーション20%,筆記試験50%の割合で評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

(財)日本レクリエーション協会(2006)
レクリエーション・コーディネートのすすめ方
(財)日本レクリエーション協会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	レクリエーション・コーディネーターとは何か
2	レクリエーションの基礎理論	レクリエーションをどう理解するか
3	レクリエーション支援の理論	事業推進のためのマネジメント
4	レクリエーション組織の経営論	総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブマネジメント
5	レクリエーションサービス論	事業の企画とレクリエーション・イベントの評価の必要性と方法
6	マーケティング	レクリエーション・マーケットを知る
7	ネットワーキング	レクリエーション・コーディネーターとネットワーキング
8	プレゼンテーションⅠ	企画書の作成
9	プレゼンテーションⅡ	プレゼンテーションの実際
10	プロモーションⅠ	広報計画の作成
11	プロモーションⅡ	各種広報媒体の調査
12	プロモーションⅢ	ニュースリリース・会報等の作り方
13	効果的な会議の持ち方	会議の実施と持ち方
14	経理・財務管理の実際	経理の基礎知識
15	まとめ	レクリエーション・コーディネーター養成課程のまとめ

体育学部体育学科

科目コード	21112		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職入門C		担当者名	久田 孝			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにはできない仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は教師になりたいと考えている学生に専門職としての教職の内容その難しさと厳しさ、そして、喜びや遣り甲斐を、実際の学校現場での実践実例から、他者との意見交換を通してお互いが議論し、学校の組織文化に基づく業務の在り方も含め「チームとしての学校」をこれまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1, 自らを振り返りながら自身の教職への適性についても、明らかにしていく。2, 教育に対する専門用語（法的根拠も含め）を理解し体系化できる。3, 共同学習に主体的に参加し、グループの効果を最大限発揮できるように貢献する。4, 現代、また未来の教育問題に対し自分の答えを適切且つ的確に言語化できる。

<授業の方法>

1, 講義（教員による解説と新たな問いの提示）2, グループワーク（予習内容に関する学びあい）3, ディスカッション（問いに対する回答）4, 省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次週の指導内容のキーワードの下調べ（ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度）復習：振り返りレポート（主体性、貢献度、問いの答えなど・毎回1時間程度）※毎回授業終了後、振り返りレポートをWordにて作成、翌日17:00までに所定のDropboxに投函のこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科のディプロマポリシー2, 「現代社会において果たす体育・スポーツの役割を深く理解し、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力」及び4, 「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる能力」に関連付けられています。単に知識を習得するだけでなく、体育・スポーツを通じ、学校教育における様々な課題を探求し解決していくのに必要な、論理的思考力、的確な判断力、創造的表現力を統合した汎用能力の習得を目指します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

予習20%、グループへの貢献度20%、課題レポート20%、総括テスト40%

<教科書>

2018, 3 新しい視点から見た教職入門 大修館書店

2013.9 学校安全と危機管理 大修館書店

2010, 3 生徒指導提要 大修館書店

<参考書>

2010, 8 改訂 実践教育評価辞典 文溪堂

2012, 10 教育フォーラム50<やる気>を育てる

金子書房

2017, 9 学校メンタルヘルスハンドブック 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	第1回は本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	求められる教師像	教師（学校）をとりまく社会の状況から、求められる教師像とそのための資質能力を理解する。
4	教師の仕事（1）	～中学校～ 中学校教師の在り方を知り、考えてみる。
5	教師の仕事（2）	～高等学校～ 高等学校教師の在り方を知り、考えてみる。
6	教師の仕事（3）	～特別支援学校～ 特別支援学校の教師の在り方を知り、考えてみる。
7	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。
8	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
9	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
10	生徒指導	生徒指導の原理と方法について実践事例をもとに指導のあり方（予知、予防と対応、対処）を理解する。
11	学校教育と社会教育	①学校教育と社会教育とのちがいについて考え、協働について理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
12	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
13	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備すること
14	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
15	総括	最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と原理の両面から学級経営に関する教師自身の学級経営に関する反省・評価と児童生徒の学級生活に関する反省・評価を基にPDCAサイクルを基に指導と評価の一体化を学ぶ。

体育学部体育学科

科目コード	38200		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎)		担当者名	平田 佳弘、齋藤 祐一			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、他者との意見交換を通して、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することが出来る。3. 個人・ペア・グループでの学習に主体的に取り組み、積極的にグループに貢献することが出来る。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかへ・質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）とディスカッション 3. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回の授業内容（学習指導要領の該当箇所）を熟読し、重要語句を記述しておく。（毎回、1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、体育指導者に求められる豊かな人間性、幅広い教養に根ざした公共的使命感や倫理観、協働できる社会的スキルを身につけると共に、習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、新たな課題に主体的・創造的に取り組み、その課題を解決出来る能力を育成するための教職基礎科目である。単に知識を習得・活用するだけでなく、新たな学校体育の在り方を提案できるような汎用能力の習得を目指すものである。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・貢献度 20%、レポート 30%、試験 50% で総合的に評価する。受講態度・貢献度は、授業中の意欲的態度、積極的発言、課題の遂行度、グループへの貢献度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論術しているものを評価する。レポートの内容については、提出後の授業で論点をコメントし、フィードバックする。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）

「学校学習指導要領解説－保健体育編一」

<参考書>

高橋健夫他（2010）

体育科教育学入門

大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育科とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科にもとめられているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	保健体育科のカリキュラム構成	小・中・高の繋がりと発展
8	体育分野の目標と内容①	「体づくり運動」「水泳」「ダンス」
9	体育分野の目標と内容②	「器械運動」「陸上運動」
10	体育分野の目標と内容③	「球技」
11	体育分野の目標と内容④	「武道」「体育理論」
12	保健分野の目標と内容	「保健」領域
13	運動の楽しさとは	運動の特性と分類
14	体育的学力とは	学力と評価
15	まとめ	これからの保健体育科を考える

体育学部体育学科

科目コード	23302		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育相談C		担当者名	赤松 久美子			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育相談は、児童が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）、技能、態度を身に付けることを目的とする。

<授業の到達目標>

1 学校における教育相談の意義と理論を理解する。2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。3 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。

<授業の方法>

・事前に指定された教科書の範囲を読んでいることを前提として、必要に応じて資料プリントを配布し、それらに基づいて講義を進める。・講義後にレポートを作成し提出することを、適宜復習課題として課す。・授業形態は、課題に対するディスカッションや、個別支援や集団支援の実際の場合を想定したロールプレイ等を含み、その取り組み姿勢を評価対象とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、重要語句の意味を一通り理解しておくこと。（1時間程度）・授業後はレポート課題に取り組むことで、授業内容の整理を行うこと。（1時間程度）・適宜小テストを実施するので、復習をしっかりとっておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

生徒の個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）、技能を身に付けることを目的とする科目である。教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子どもの理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」、ディプロマポリシー4「周囲の学校関係者と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 25%、授業レポート・小テスト 25%、定期試験 50% とし、総合的に評価する。

<教科書>

森田健宏・田爪宏二監修（2018年1月30日）
「よくわかる！教職エクササイズ 教育相談」

<参考書>

藤田哲也監修（2017年10月30日）
「絶対役立つ 教育相談」
ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについてのガイダンス
2	教育相談の意義と校内体制について	教育相談の必要性と意義について理解する。校内体制と連携について考察する。
3	カウンセリングの基本	カウンセリングの基本的知識を理解する。
4	カウンセリングの基本的技法	学校カウンセリングの基本的技法を学ぶ。
5	不登校の児童への対応	不登校の定義と実態を理解する。不登校児童・生徒に対する基本的対応について考察する。
6	いじめへの対応	いじめの定義と構造を理解する。いじめ対応の基本的姿勢と流れについて考察する。
7	子どもの虐待への対応	児童虐待の現状とその対応について、スクールソーシャルワーカーとの連携も含めて学ぶ。
8	非行、学校不適応への対応	非行や学校不適応への理解と対応について、様々な角度から考える。
9	発達障害のある児童への対応①	発達障害についての基本的知識と、特別支援教育の現状について理解する。
10	発達障害のある児童への対応②	子どもの困難に寄り添うための基本的な姿勢と対応について、事例を通して学ぶ。
11	校内や専門機関等との連携	校内組織の中での連携や、他機関の専門家との連携について、そのあり方を考える。
12	教育相談におけるアセスメント	面接法や、行動観察、各種の心理検査等について、他の専門機関との連携を視野にその利用方法を理解する。
13	保護者への対応	保護者対応の重要性を理解し、基本的な流れについて理解する。
14	教師のメンタルヘルスについて	バーンアウト（燃え尽き症候群）等精神疾患での休職率の高さなど日本の教師を巡る諸問題について考える。
15	まとめ	まとめ

体育学部体育学科

科目コード	38201		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)		担当者名	平田 佳弘、齋藤 祐一			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育の教材開発・授業計画について学ぶものである。従って、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することが出来る。2. 保健体育授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることが出来る。4. 協同学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必要な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）
 復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、科学的根拠や思考を持って、体育スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を育成すると共に、体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることが出来る生涯学習力を養うための教職の応用科目である。単に方法を習得するだけでなく、保健体育教員としての自覚と責任のもと、常に自己研鑽しながら自分を高めていく学習習慣の形成と実践力の向上を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・貢献度 20%、レポート（含指導案）30%、試験 50% で総合的に評価する。受講態度・貢献度は、協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。レポートの内容については、提出後の授業でコメントし、フィードバックする。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）
 「中学校学習指導要領解説一保健体育編一」

<参考書>

文部科学省
 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」
 東山書房
 杉山重利・高橋健夫・園山和夫 編(2009)
 保健体育科教育法
 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育分野の教材づくり	典型教材から学ぶ
5	集団種目の教材研究	グループワークによる教材の選定と作成
6	集団種目教材の実践	模擬授業と省察
7	個人種目の教材研究	グループワークによる教材の選定と作成
8	個人種目教材の実践	模擬授業と省察
9	教師の4大行動	優れた授業に学ぶ
10	保健分野の教材研究	教材の選定と学習活動の工夫
11	指導計画とは	指導計画の意義と方法
12	指導案を読み解く	実践事例から授業設計を捉える
13	指導計画の作成①	単元計画の作成と改善
14	指導計画の作成②	単位時間計画の作成と改善
15	まとめ	よい授業に向けて、保健体育教師に求められるもの

体育学部体育学科

科目コード	21322		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法（中等）		担当者名	伊住 継行、大野 光二			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、中学校における道徳教育の内容や指導法について理解し、中学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な指導力を育成することをめざす。現代社会は価値多元化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに中学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようになる。

<授業の方法>

道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて議論する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく。（1時間程度）
 ・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく。（1時間程度）
 授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する。（1～2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）とディプロマポリシー7（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。）と関連付けられている。道徳教育や特別の教科道徳のねらいや特質を踏まえた指導法について学ぶことを通して、上記のディプロマポリシーに示されている資質・能力を養うことをめざす。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 30%、指導案・模擬授業等 30%、定期試験 40%

<教科書>

文部科学省（2018/3/30）

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」

教育出版

0

「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」（平成29年7月）

教育出版

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校における道徳教育	学校における道徳教育の意義
2	道徳教育の歴史	戦前・戦後における道徳教育の変遷と課題
3	道徳教育の目標	教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と特別の教科道徳の目標
4	道徳教育の内容	道徳教育の指導内容と発達に即した内容の系統
5	道徳教育の指導計画(1)	道徳教育の全体計画の意義と内容及び全教育活動における道徳教育の活動の具体
6	道徳教育の指導計画(2)	特別の教科道徳の年間指導計画の意義と内容
7	道徳の授業の実際	道徳の授業の視聴と授業分析
8	道徳の授業の組み立て方(1)	道徳の授業の構想、実態に基づく資料分析とねらいの設定
9	道徳の授業の組み立て方(2)	道徳の授業の指導過程と発問の組み立て方
10	学習指導案の作成(1)	道徳科の学習指導案の作成
11	模擬授業(1)	模擬授業の実施と道徳科の特質を踏まえた授業展開についての議論
12	学習指導案の作成(2)	道徳科の学習指導案の作成
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と道徳科の特質を踏まえた授業展開についての議論
14	家庭・地域との連携	道徳教育における家庭・地域との連携の内容と活動の具体
15	生徒理解に基づく道徳教育・道徳科の評価	道徳教育・道徳科における評価の方法と内容

体育学部体育学科

科目コード	65016		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ（公務員）		担当者名	横内 浩平			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな採用試験について十分理解しておく必要がある。本科目では、警察官・消防士・刑務官などの公安系公務員を目指す学生がそれぞれの職種について学び、公務員としての心構えを身につけることをねらいとする。また実際に出題される試験問題を解説し、実践力を身につけることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員という仕事を知り、また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。2. 3年次から開講される「公務員対策講座」を受講するための基礎力を養成し、採用試験に向けての準備を怠らないことを目的とする。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）2. グループワーク（授業中に出される問題に関する教え合い）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する公式等の下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業中に解き方を示した問題を解けるようにしておく（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、体育学科のディプロマポリシー8（修得した知識・技術・態度の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。）と関連づけられている。公務員試験対策をする上で必要とされる数学的な基礎学力を身に付け伸ばすことを目指している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 30%、授業態度 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

資格試験研究会（2019年3月11日発行）

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	公務員という仕事の理解・計算演習（1）	公務員試験全般について学ぶ。分数の計算
3	計算演習（2）	文字式
4	計算演習（3）・職種研究（1）	連立方程式、職種研究 警察官編
5	数的処理分野（1）	速さⅠ（旅人算・通過算）
6	数的処理分野（2）・職種研究（2）	速さⅡ（流水算・時計算）・職種研究 刑務官編
7	数的処理分野（3）	割合Ⅰ（相当算・売買算）
8	数的処理分野（4）・職種研究（3）	割合Ⅱ（濃度算・仕事算）・職種研究 自衛隊編
9	数的処理分野（5）	方程式・不等式Ⅰ（和差算・過不足算）
10	数的処理分野（6）・職種研究（4）	方程式・不等式Ⅱ（分配算・年齢算・平均算）・職種研究 海上保安官編
11	数的処理分野（7）	整数（約数・倍数・記数法）
12	数的処理分野（8）・職種研究（5）	確率Ⅰ（順列・組合せ）・職種研究 事務職系
13	数的処理分野（9）	確率Ⅱ（場合の数・確率）
14	数的処理分野（10）・職種研究（6）	規則性（数列・規則性の発見・計算パズル） 職種研究 その他の職種
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など

体育学部体育学科

科目コード	38401		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	武道指導論		担当者名	平田 佳弘			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、講道館柔道と剣道について論ずる。講道館柔道は、嘉納治五郎の手によって日本の伝統的武術である柔術に安全性と教育的効果を求めて創始された運動文化である。嘉納は、はじめ天神真楊流、次いで起倒流の柔術を学び、これらの柔術が青少年の教育に大いに役立つものであることを知る。これを基礎として、欧米のスポーツ的側面を取り入れながら新しい体育、修心の考えに立った柔術を柔道命名し明治15年講道館柔道を創始した。この授業では、その講道館柔道を指導する者の心構えや、有るべき姿、さらにはこれからの社会にはたすべき武道教育の役割について論ずる。剣道についても、剣道の歴史、剣道理念等、剣道の基礎知識を学習し、さらに宮本武蔵著「五輪書」を熟読しながら、柔道と同様、日本文化である武道のあるべき姿や武道教育の役割を追求していく。

<授業の到達目標>

歴史、特性、礼法などの基本知識を得て、武道（柔道・剣道）から何を学ぶのか、自分の課題を意識することができる。武道（柔道・剣道）の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、それを実践できる力が身につく。

<授業の方法>

主に講義を中心に展開する。柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を数時間実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に柔道及び剣道に関する書籍を読んでおくこと。（1時間程度）復習：グループワークの場合はレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科ディプロマポリシー3「幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。」と関連付けられています。現代社会において果たす体育・スポーツ、さらに武道の役割を深く理解し、武道に関する知識、技能、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力を培う科目がこの「武道指導論」です。武道とは何か、武道教育とは何か、武道教育の役割とは何かを、講道館柔道と剣道の観点から追求し、武道指導者としての総合指導力、実践力を高める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982

五輪書

徳間書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。

体育学部体育学科

科目コード	65017		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ（公務員）		担当者名	森 利治			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

<授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が得点が取れるようにする。

<授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。（1時間程度）復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、体育学科のディプロマポリシー8（修得した知識・技術・態度の全てを総合的に判断し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身につけている。）と関連付けられる。「文武両道を通じて培った経験を活かし、公務員として社会貢献できる人」を育成するための基礎科目であり、3年次後期から始まる公務員試験対策講座に向けて学習方法や心構えも合わせて伝えていくことを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 60%、単元別試験 30%、授業に取り組む姿勢・提出物 10%

<教科書>

特になし

<参考書>

資格試験研究会

新初級スーパー過去問ゼミ

実務教育出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をプレ講義
2	思想（1）	西洋思想Ⅰ（1）（自然哲学から古代ギリシャ哲学）
3	思想（2）	西洋思想Ⅰ（2）（キリスト教思想と中世哲学）
4	思想（3）	西洋哲学Ⅱ（1）（経験論思想と合理論思想の比較）
5	思想（4）	西洋思想Ⅲ（1）（経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム）
6	思想（5）	西洋思想Ⅲ（2）（合理論思想の流れ～社会主義と実存主義）
7	思想（6）	西洋思想Ⅲ（2）（ドイツ観念論と構造主義）
8	思想（7）	東洋思想Ⅰ（1）（バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり）
9	思想（8）	東洋思想Ⅰ（2）（聖徳太子から平安時代までの仏教について）
10	思想（9）	東洋思想Ⅱ（1）（古代中国の諸子百家について）
11	思想（10）	東洋思想Ⅱ（2）（中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について）
12	思想（11）	東洋思想Ⅱ（3）（明治以降の日本の哲学について）
13	社会（1）	社会学の基礎（1）（現代社会の特質について）
14	社会（2）	社会学の基礎（2）（社会集団の種類について）
15	社会（3）	社会学の基礎（3）（家族について）

体育学部体育学科

科目コード	38302		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育測定・評価		担当者名	浅野 幹也			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「体育測定・評価」では、体育・スポーツ領域における目標（様々な体力要素）に対していかなる教育内容をどのような計画で実践し、いかに達成されたかを評価する。様々な目標を達成するために必要な測定を正しく実施し、適切に分析、評価することが求められる。そこで本講義ではまず一般に広く実施されている「新体力テスト」の内容と評価の理解を深め、そこから各体力項目における科学的測定とその活用方法について取り扱う。

<授業の到達目標>

各種体力測定の方法や目的を理解し、測定計画から運営が適切に行われ、そこで得られるデータを分析・評価することによって実際の体育・スポーツ現場へ応用できる力を身につける。また、（公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー資格取得に繋がるよう、知識を習得する。

<授業の方法>

パワーポイント等を用いて講義を行い、必要に応じて資料を配布する。受講生は講義ノートを作成すること。また、トップガンやスポーツ科学センターにて、体力測定の実践を試みる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業中に記録したノートや配布された資料、また参考書を通じてを復習すること（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける。また、健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けることを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（実践的態度および課題提出状況） 40%、筆記試験 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

- （公財）日本体育施設協会（2012）
公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
- （公財）日本体育施設協会
（財）健康・体力づくり事業財団（2008）
健康運動指導士養成講習会テキスト<下>
- （財）健康・体力づくり事業財団
日本発育発達学会（2014）
幼児期体力指針実践ガイド
榎杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明
2	幼児期運動指針とは（1）	幼児期運動指針のねらいと特徴
3	幼児期運動指針とは（2）	幼児期運動指針構成と評価
4	高齢者の体力テストの内容と評価	高齢者の体力テストのねらいと特徴、構成と評価
5	新体力テストの内容と評価（1）	新体力テストの実施計画と運営
6	新体力テストの内容と評価（2）	新体力テストの評価システム
7	新体力テストの内容と評価（3）	統計処理と結果の活用
8	新体力テストの結果とその活用	新体力テストの結果と考察
9	前半までのまとめ	各種体力テストのまとめ
10	体力・運動能力の測定と評価（1）	科学的測定の重要性とその活用
11	体力・運動能力の測定と評価（2）	身体組成の評価
12	体力・運動能力の測定と評価（3）	姿勢、アライメント、関節可動性の評価
13	各種測定と評価（1）	教育・医療・福祉等における測定と評価1
14	各種測定と評価（2）	教育・医療・福祉等における測定と評価2
15	全体のまとめ	後半のまとめ及び全体のまとめ

体育学部体育学科

科目コード	65019	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	公務員と法	担当者名	宮園 司史			○			
配当年次	3	配当学期	前期I	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

良好な治安を確保し、国民の生命、身体及び財産を守ることは、国の基本的な責務であるが、それは同時に、都市の競争力を向上させ、我が国の産業立地競争力を高めるなど、社会・経済の発展にも寄与するものである。しかしながら、現在、我が国の治安は、サイバー犯罪・サイバー攻撃、国際テロ、組織犯罪といった重大な脅威に直面している。本科目では、我が国の安全・安心の現状、治安上の課題、警察等における各種取組等について、警察幹部としての経験談を交えながら、幅広く取り扱い、我が国のセキュリティに関する理解と認識を醸成する。

<授業の到達目標>

我が国のセキュリティに関する基本的な知識を身につけるとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、「世界一安全な日本」を実現するための各種取組についての理解を深めることを目標とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を、パワーポイントや動画等を用いて、わかりやすく解説するとともに、学生との質疑応答や学生からの意見発表の機会を設けるなどして、担当者と学生とのインタラクティブな授業を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回のテーマについて、指定された教科書の該当部分を予習するとともに、新聞、書籍、刊行物、インターネットなどから必要な情報を収集するなどして、授業中に積極的な質問や意見発表ができるように準備しておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的な参加・学習意欲 20%、レポート 20%、試験 60%

<教科書>

国家公安委員会・警察庁
平成30年版警察白書

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	安全・安心を担う仕事とは？	イントロダクションとして、担当者の警察幹部としての経験談等を交えつつ、安全・安心を担う仕事の意義、重要性等を説明する。
2	我が国の安全・安心の現状（その1）	最近の事件事故の発生状況等の指数治安や、国民が肌で感じる体感治安等の現状について説明する。
3	我が国の安全・安心の現状（その2）	我が国の安全・安心を脅かしている各種の治安事象や将来の見通し等について説明する。
4	警察の制度、任務、組織（その1）	我が国の安全・安心を担っている警察の制度、歴史、任務、組織等の概要について説明する。
5	警察の制度、任務、組織（その2）	警察官の採用、人事、教育訓練の現状や警察における女性職員の活躍ぶり等について説明する。
6	犯罪情勢と捜査活動（その1）	我が国における犯罪の発生状況や検挙状況等を通じて、昨今の犯罪情勢の特徴、傾向等について説明する。
7	犯罪情勢と捜査活動（その2）	昨今の犯罪情勢に的確に対処するための課題や捜査活動の取組の現状等について説明する。
8	国民生活の安全確保（その1）	子供・女性の安全確保に向けた各種の取組や、昨今大きな社会問題となっている特殊詐欺の現状とその対策等について説明する。
9	国民生活の安全確保（その2）	地域住民の安全確保に向けた各種の取組や、犯罪を抑止するために進められている諸対策等について説明する。
10	サイバー空間の安全確保（その1）	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状等について説明する。
11	サイバー空間の安全確保（その2）	サイバー空間における各種の脅威に的確に対処し、サイバー空間の安全を確保するための各種取組等について説明する。
12	組織犯罪対策（その1）	依然として社会の大きな脅威となっている暴力組織の現状やこれらの組織の壊滅に向けた各種取組等について説明する。
13	組織犯罪対策（その2）	社会の安全を脅かす薬物問題等の現状と対策や、国際犯罪組織の動向とこれらの組織に対処するための各種取組等について説明する。
14	公安の維持と災害対策（その1）	我が国にとって重大な脅威となっている国際テロの現状やテロを未然に防止するための各種取組等について説明する。
15	公安の維持と災害対策（その2）	地震、風水害等の自然災害に対処するための対策や、要人警護や大規模警備（サミット警備等）に係る各種取組等について説明する。

体育学部体育学科

科目コード	65018		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ（公務員）		担当者名	森 利治			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる歴史的出来事の話などを交えながら就職してから周りとのコミュニケーションを取る中で必要な教養知識を身につけることを目的に開講します。

<授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようにする。

<授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。（1時間程度）復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、体育学科のディプロマポリシー8（修得した知識・技術・態度の全てを総合的に判断し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身につけている。）と関連付けられる。「文武両道を通じて培った経験を活かし、公務員として社会貢献できる人」を育成するための基礎科目であり、3年次後期から始まる公務員試験対策講座と連動して基礎力を養成し、採用試験に向けての準備を怠らないことを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 60%、単元別試験 30%、授業に取り組む姿勢・提出物 10%

<教科書>

<参考書>

資格試験研究会
新初級スーパー過去問ゼミ
実務教育出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明とプレ講義
2	日本史（1）	古代史（1）（大和政権から律令時代）
3	日本史（2）	古代史（2）（律令制度崩壊から再建にかけての変遷）
4	日本史（3）	中世史（1）（摂関政治から院政・平氏政権への移行）
5	日本史（4）	中世史（2）（平氏滅亡から執権政治）
6	日本史（5）	中世史（3）（元の襲来から南北朝時代）
7	日本史（6）	中世史（4）（南北朝合一から戦国時代）
8	日本史（7）	近世史（1）（織豊政権から江戸幕府の基礎確立）
9	日本史（8）	近世史（2）（元禄時代から新井白石の政治と文化史）
10	日本史（9）	近世史（3）（三大改革から家斉の大御所政治と化政文化）
11	日本史（10）	近代史（1）（開国から明治新政府による近代国家建設）
12	日本史（11）	近代史（2）（明治時代中期から条約改正交渉と産業革命）
13	日本史（12）	近代史（3）（大正デモクラシーから金融恐慌）
14	日本史（13）	近代史（4）（世界恐慌から軍部の台頭）
15	日本史（14）	近代史（5）（日中戦争からポツダム宣言受諾まで）

体育学部体育学科

科目コード	40101		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)		担当者名	中川 和之、前川 真姫			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとす。

<授業の到達目標>

バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解する。また、個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストラーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

知識・理解（DP2:健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）及び汎用性技能（DP4:現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている）を習得する科目である。「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力」を育成するための基礎科目であり、初年次生に対し、グループ学習を通して、バスケットボールの競技特性および競技の魅力を理解し、バスケットボールの技術指導を適切に行える指導能力を総合的に伸ばすための機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技態度 60%、実技試験 20%、レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	バスケットボールの成立、基本技術の習得（1）	バスケットボールの歴史や競技特性について解説、ボールハンドリング技術、ドリブル技術の練習
3	ルールやコート名称・基礎技術の習得（2）	バスケットボール競技のルールやコート名称を知る。パス&キャッチ技術の練習
4	基本技術の習得（3）	シュート技術の練習①
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習②
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習③
7	基本技術の習得（6）	ディフェンス技術の練習
8	応用技術の習得（1）	2対1等の攻防（ハーフコート）
9	応用技術の習得（2）	3対2等の攻防（ハーフコート）
10	集団戦術（1）	2対2、3対3の練習（ハーフコート）
11	集団戦術（2）	2対2、3対3の練習（オールコート）
12	リーグ戦（1）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
13	リーグ戦（2）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
14	リーグ戦（3）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
15	まとめ	スキルテスト

体育学部体育学科

科目コード	40201		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バスケットボールⅡ(応用)		担当者名	森 億			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

平成26年12月に中央教育審議会から文部科学大臣に答申された「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等教育、大学教育、大学入試選抜の一体改革について」の中で、「高校の学習指導要領の見直し、主体的・協働的な学習・指導方法であるアクティブ・ラーニングへの飛躍的充実をはかること」「大学教育もアクティブ・ラーニングへと質的に転換すること」という言葉が明記された。本授業はその答申を受け、バスケットボール競技を題材に、アクティブ・ラーニングを踏まえた授業づくりの知識と手法を学びながら、教師に必要な力としての「ファシリテーター力」の育成を図る事を目的としたものである。履修条件として、必ず下記を参照してください。この授業はバスケットボール競技のスキル向上を狙いとしたものではありません。将来教師を目指している学生を対象に、授業力向上を狙いとした授業です。演習として小学生を招いての公開授業を3回（土曜日）行います。

<授業の到達目標>

①アクティブ・ラーニングの知識・スキルの習得②ファシリテーター力の知識・スキルの習得及び実践③チームビルディングの知識・スキルの習得 上記の知識やスキル習得を試みながら、教師としての「授業作り」及び生徒との「会話力」の向上が目標である。

<授業の方法>

講義及び実技を通し、アクティブ・ラーニングの手法を学びつつ、授業を展開させるファシリテーターに必要な知識とスキルを学ぶ。また、身に付けたスキルを小学生との共同活動時にアウトプットさせながら、定着状況を確認（自己評価）していく。また終了後に、振り返りを仲間と共にシェアしながら、自己育成に繋げていく。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で学んだ知識やスキルを実践でパフォーマンスとして発揮できるように、日々イメージ（準備）させておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

総合的な学習経験と創造的思考力（DP:8:修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的・創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。）及び汎用性技能（DP4:現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている）を習得する科目である。この授業は、実技向上だけでなく、指導技術の一つであるファシリテーターの知識やスキルを高める事を狙いとしながら、本学のディプロマ・ポリシーである「体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根ざした公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」の育成を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席及び活動状況（態度） 40% 演習状況（知識含む）及び活動レポート 60%

<教科書>

特になし

<参考書>

森 億（2018年2月5日）

脳は「ノー」と言えば、パフォーマンスは上がる！

ベースボールマガジン社

高妻容一・森 億他（共著）

バスケットボール選手のメンタルトレーニング

ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業内容と進め方及び評価について理解する
2	技術指導法について	選手が楽しめる時間の作り方を学ぶ
3	チームビルディングについて	チームの作り方や高め方を学ぶ
4	教え合い学習について	ファシリテーターの意義・役目の理解及び演習の準備をする
5	演習①	ファシリテート実践①（小学生との実践活動）
6	演習①	ファシリテート実践①（小学生との実践活動）
7	演習①の振り返り（フィードバック）	演習①の振り返りながら、次時に向けての確認をする
8	演習②の準備・確認	演習②に向けての準備（確認及びリハーサル）をする
9	演習②	ファシリテート実践②（小学生との実践活動）
10	演習②	ファシリテート実践②（小学生との実践活動）
11	演習②の振り返り（フィードバック）	演習②の振り返りながら、次時に向けての確認をする
12	演習③の準備・確認	演習③に向けての準備（確認及びリハーサル）をする
13	演習③	ファシリテート実践③（小学生との実践活動）
14	演習③	ファシリテート実践③（小学生との実践活動）
15	総括	まとめ

体育学部体育学科

科目コード	40102		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅠ(基礎)		担当者名	坂本 博秋			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームから高度なコンビネーションプレーまで、プレーする人の能力に応じた多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは同じ人が続けて2度以上ボールに触れてはいけないと言う構造的な特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な個人技術、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な個人技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間と喜びを分かち合うバレーボールの持つ楽しさを味わう。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったゲーム形式が展開出来ることを目標とする

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや技術理論を理解させ授業を進めていく。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得する」と共に、「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習能力」を育成する基礎科目となる。ステップアップ科目として「バレーボールⅡ」と関連している。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入	ウォーミングアップ、軽運動
2	基礎技能練習(1)	ボールコントロール(2人1組によるパス等)
3	基礎技能練習(2)	ボールコントロール(3人1組・円陣パス等)
4	基礎技能練習(3)	スパイク・ブロック
5	基礎技能練習(4)	サーブ・レシーブ
6	基礎技能練習(5)	基本実技テスト
7	チーム練習(1)	チーム編成・戦術練習(サーブおよびスパイクレシーブ)
8	チーム練習(2)	戦術練習(サーブおよびスパイクレシーブからの攻撃)
9	チーム練習(3)	審判法、実技テスト
10	試合形式(1)	リーグ戦および順位決定戦の実施審判の実践(1)
11	試合形式(2)	リーグ戦および順位決定戦の実施審判の実践(2)
12	試合形式(3)	リーグ戦および順位決定戦の実施審判の実践(3)
13	試合形式(4)	リーグ戦および順位決定戦の実施審判の実践(4)
14	試合形式(5)	リーグ戦および順位決定戦の実施審判の実践(5)
15	まとめ	総合実技テスト

体育学部体育学科

科目コード	40119		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ラグビー		担当者名	小村 淳			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ルールやラグビーの原理原則を資料とし、配付し事前学習を行う。実技などを撮影し映像でのレビューを実施する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

<参考書>

佐藤満（2006）

「レスリング入門」

ベースボールマガジン社

佐藤満（2007）

「佐藤満 レスリング入門 vol.1（DVD）」

株式会社クエスト

佐藤満（2007）

「佐藤満 レスリング入門 vol.2（DVD）」

株式会社クエスト

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦

体育学部体育学科

科目コード	40120		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	サッカー		担当者名	降屋 丞、桂 秀樹			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、少しでも高められるようにし、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。（2時間）
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けることに加え、体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる社会的スキルを身に付ける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、ビデオ学習
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチの練習
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブルの練習
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キックの練習
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップの練習
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープの練習
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイントの練習
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッションの練習
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッションの練習
10	個人戦術	1対1の練習
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2の練習
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3の練習
13	グループ戦術(3)	4対3、5対4の練習
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方

体育学部体育学科

科目コード	40121		区 分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール		担当者名	山本 清人			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃, 安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに, 自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに, フェアなプレイを大切にしようとする, 合意形成に貢献しようとする, 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする, 互いに助け合い高め合おうとすることなどや, 健康・安全を確保することができる。

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間) (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）と関連付けられています。ソフトボール競技を通して日常的にスポーツに親しみ、かつ楽しむことを目指し、豊かな人間性を修得するための科目であり、プレーを通して体力を向上させるとともに健康を増進させ、チームスポーツで得られる他者を尊重しこれと協同する精神、公平さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うことで思考力や判断力を実践的に活用することのできる人格を修得することを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

特になし

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会

「ソフトボール指導者教本」

日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と関係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

体育学部体育学科

科目コード	40122		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ハンドボールⅠ（基礎）		担当者名	前田 誠一、佐藤 正敏			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。（1クラスの定員50名とする。）

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的集め、内容をチェックする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付け、体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付ける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

笹倉清則（2003）

「Tactics of Handba in The Word」

財団法人ハンドボール協会

酒巻清治（2012）

「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」

池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明
2	攻撃の個人技術（1）	ゲームに必要な個人の攻撃技術
3	攻撃の個人技術（2）	シュートに着目した個人の攻撃技術
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術（1）	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム（1）
6	対人的技術・戦術（2）	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム（2）
7	グループ戦術（1）	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム（1）
8	グループ戦術（2）	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム（2）
9	ゲーム（1）	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム（2）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（1）
11	ゲーム（3）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（2）
12	ゲーム（4）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（3）
13	ゲーム（5）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（4）
14	ゲーム（6）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（5）
15	ゲーム（7）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（6）

体育学部体育学科

科目コード	40202		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)		担当者名	坂本 博秋			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とする。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや技術理論を理解させ授業を進めていく

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得する」と共に、「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力」を育成する基礎科目となる。「バレーボールⅠ(基礎)」のステップアップ科目として関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ディグ (1)	ストレート、クロス、軟打
2	ディグ (2)	3人シフト、4人シフト
3	サーブの理解	フローターサーブ、ジャンピングサーブ
4	レセプションの理解	2、3人シフト、ダブルシフト
5	ハイセット、コンビネーション(1)	6人1組によるトス(レフト、ライト)、二段トス
6	ハイセット、コンビネーション(2)	6人1組によるトス(レフト、センター、ライト)、二段トス
7	コンビスパイク(1)	6人1組でスパイク(レフト、センター、ライト)
8	コンビスパイク(2)	セッターのトスによるコンビスパイク
9	ブロックシステムの理解	バンチリード、スプレットコミットブロックシステム
10	レセプションアタック(1)	チャンスサーブからのコンビスパイク
11	レセプションアタック(2)	レセプション(6人)からのコンビスパイク
12	リーグ戦(1)	リーグ戦の実施と審判の実践(1)
13	リーグ戦(2)	リーグ戦の実施と審判の実践(2)
14	リーグ戦(3)	リーグ戦の実施と審判の実践(3)
15	まとめ	総合実技テスト

体育学部体育学科

科目コード	53013		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校支援ボランティア		担当者名	大野 光二			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。活動の記録を日誌として残し、成果と課題をレポートにまとめて最後に発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、記録に残しておくこと。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校支援ボランティアの在り方について学び、学校に出かけ児童・生徒の学習面や生活面での支援や指導を行うことを通して、教育経営学科のディプロマポリシーの7(子どもの未来に対する強い使命感と責任を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ボランティア活動への取組みの様子 40%、レポート及び発表の内容 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。

体育学部体育学科

科目コード	51011		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(保健体育)		担当者名	平田 佳弘			○		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、教育実習先で体育実技、保健の授業が円滑に出来るようになる授業実践力を身に付けることを目的とする。さらに実習後には、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として資質の向上を図る。

<授業の到達目標>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、保健体育科の教員としてよりよい実技授業、保健授業が出来るようにすることを目標にするとともに、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として資質の向上を図ることを到達目標とする。

<授業の方法>

まず、教育実習の心構え、実習日誌の書き方、学習指導案の作成方法等を講義形式で学んだ後、各グループ（実習校地域別）に分かれての授業になる。各グループで、学校現場で使用されている保健体育科の教科書に沿って学生が自ら模擬授業（実技・保健）を実施し、それを担当教員が指導、グループ内学生でのディスカッション、評価を重ね、実習でよりよい授業が出来ることを目指す。実技においても保健授業においても、教材・教具・授業ノート・授業プリントの工夫が大切である。なお、すべての講義において教育実習に行く服装（スーツ）・頭髪・容貌

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に自分の行く教育実習校でどの教科書が使用されているか、実技ではどの種目を、保健ではどの単元を担当するかを実習校に聞いて調べておき、それに沿った学習指導案を作成し、模擬授業の練習を重ねておく。模擬授業後、何が出来て何が出来なかったかをしっかり振り返り、次の模擬授業に活かしていく。特に保健授業では、専門知識が必要になるため実習で自分の担当する単元については事前にしっかり勉強しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、体育学科のディプロマポリシー8「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。」と関連づけられています。教職課程（保健体育）で身に付けた知識、技能等を実際の教育現場での授業にいかに関与できるか、どのように結びつけていくことができるかが求められる。さらに、豊かな人間性、幅広い教養に根ざした「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を養成する科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教育実習事前指導授業の授業態度、模擬授業評価、教育実習事後指導での教育実習報告書の作成評価、出席状況等を総合的に評価するが、教育実習校評価も重視する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習の意義と心構え (1)	教育実習の意義
2	教育実習の意義と心構え (2)	教育実習を成功させる準備と心得
3	教育実習の意義と心構え (3)	道徳・特別活動・総合学習時間の指導
4	教育実習の方法と技術 (1)	学校経営と学級経営、方針とねらい、教職員の職務と役割
5	教育実習の方法と技術 (2)	教師と生徒との人間関係、問題を持つ生徒の個別指導
6	保健体育教科の指導	学習指導のあり方、学習指導計画の意義・ねらいと立案
7	研究授業（模擬授業）の方法 (1)	中学校・高等学校に分け、また、県別に分け、模擬授業を行う
8	研究授業（模擬授業）の方法 (2)	学習指導案のねらい・内容と書き方
9	研究授業（模擬授業）の方法 (3)	教材研究のすすめ方、教科書・補助教材の扱い方、板書の工夫
10	研究授業（模擬授業）の方法 (4)	教師の言葉遣い・話し方・聞き方、机間指導・個別指導
11	研究授業（模擬授業）の方法 (5)	個別学習・グループ学習の進め方
12	研究授業（模擬授業）の方法 (6)	学習評価とその活用
13	研究授業（模擬授業）の方法 (7)	研究授業の実際～過去の実習生の事例～
14	教育実習報告会	教育実習の反省会および報告会
15	教育実習報告書作成	教育実習記録をもとに作成

体育学部体育学科

科目コード	53012		区分	キャリア形成科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校)		担当者名	平田 佳弘			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本学での学び（教職課程）の集大成として履修カルテを作成し、今まで履修してきた教養科目、専門科目、教職科目、教育実習等を振り返り、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできる力、教育実践力を身につけることが目的である。

<授業の到達目標>

教育に対する使命感や情熱を持ち、さまざまな子どもに対しての理解力、学級経営力、生徒指導力、学習指導力等、教育現場に必要な教育実践力を身につけ、またその力で、教育現場でのさまざまな課題に対し、主体的、積極的に取り組む態度を身につける。

<授業の方法>

講義、模擬授業、ディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

体づくり運動、器械運動、陸上競技等、各授業テーマ、題材に沿って事前に調べておく課題、準備しておく資料がある。各授業テーマ毎に授業案を作成しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科のディプロマポリシー8「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる能力の育成をする」と関連づけられている。すなわち教員養成課程のまとめが本授業である。本授業で自分の保健体育教員としての専門知識、教育実践力を履修カルテで振り返り、不足する力を発見し、補い、教育現場で円滑に教員生活が営むことができるようにする科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業における課題等のレポート 40%、授業における諸活動 40%、定期試験 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

文部科学省

「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

文部科学省

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	教職実践演習受講の心構え、履修カルテの記入方法、教育実習の振り返り（グループ討論）
2	教職実践演習の目的履修カルテの記入	教職実践演習の目的の理解、生徒指導、道徳、ホームルーム指導、学校組織の理解
3	教育現場の現状	生徒指導・HR指導の実際、学校組織・校務分掌等の理解
4	実技指導の留意点（1）	器械運動、体づくり運動の内容と指導の留意点
5	実技指導の留意点（2）	水泳、学校行事（スキー実習・体育祭・球技大会等）の運営
6	実技指導の留意点（3）	陸上競技（短中距離、投擲）指導の内容と留意点
7	実技指導の留意点（4）	陸上競技、体育理論の指導における留意点
8	実技指導の留意点（5）	球技（ゴール型：バスケット、サッカー、ハンドボール等）の内容と指導の留意点
9	実技指導の留意点（6）	球技（ネット型：バレーボール、テニス、卓球等）の内容と指導の留意点
10	実技指導の留意点（7）	球技（ベースボール型：ソフトボール）の内容と指導の留意点
11	実技指導の留意点（8）	武道（剣道、柔道、相撲）の内容と指導の留意点
12	実技指導の留意点（9）	ダンス（創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス）の内容と指導の留意点
13	学校事故の現状と対処法	中学校・高等学校で多く発生する事故の現状とその対策、対処法
14	保健体育科の役割と体育教師としての責務	学校現場で体育教師に求められること（部活指導、生徒指導等）について
15	今後の教育、教科「保健体育」の方向、求められる教師像	今後の教育の方向、求められる教員の資質、役割、使命感